

学校教育目標	学校教育目標 豊かに関わり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子 ～高め合う仲間たち～					
	○自ら学び、活用・探求する力をもった子どもを育てます。(知) ○自分らしさを生かし、他の人との違いを認め合う子どもを育てます。(徳) ○健康や安全の大切さを認識し、生き生きと活動する子どもを育てます。(体) ○人やものと豊かに関わり合い、共に生きる子どもを育てます。(公) ○コミュニケーションを通して視野を広げ、社会の変化に対応できる子どもを育てます。(開)					
学校概要	創立	52 周年	学校長	安東 光	副校長	澤 勉
	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 4	児童生徒数: 512 人		
主な関係校: 青葉台中学校 青葉台小学校						

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	青葉台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <コミュニケーション向上のための言語能力> <心身ともにたくましく生きる力>	青葉台中学校 青葉台小学校 榎が丘小学校	○自分から進んで学び、他者と話し合いながら考えを深め、夢の実現を目指す子 ○自他を認め合い、心身ともに健康で、自分らしく行動する子 ○地域・社会の関わりを大切に、世界や未来に目を向け、共生していく子 ○ブロック内の学校の授業、行事等をそれぞれの教員が参観・意見交換し、「授業のつながり」を意識しながら「各教科等の指導の重点」についてイメージをもつ。 ○ブロック合同行事を通して、「だれもが 安心して 豊かに」過ごせる学校づくりに向けた「人間関係づくり」と「共通体験」の機会をもつ。

中期取組目標 「高め合う仲間たち」 ○笑顔あふれる活気に満ちた学校づくりをする。 ○子どもたちや職員一人ひとりが自分らしさを発揮し、安心して生き生きと活躍することができる学校づくりをする。 ○学び合い、高め合い、協力し合い、助け合い、共に成長できる学校づくりをする。 ○子どもたちにとってわかりやすく楽しい授業をめざして教職員が研究・研修、自己研鑽に努める学校づくりをする。 ○子どもたち、保護者、地域の方達から信頼される学校づくりをする。 ○日々の観察とL-gateやロイノートのデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、児童指導と学びの充実に生かす。
--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力 担当 学習・評価推進部	児童にとって分かりやすく楽しい授業となるよう、ICT機器を学習場面に応じて有効活用し、知識や技能、語彙力、思考力、判断力、表現力、対話力等の学びに向かう力を育成する。各教科で自分の考えを言語化する活動を充実させ、お互いの学びを深める子どもたちを育てる。朝モジュールの学習では、漢字学習を中心に、新出漢字の定着を図る。
徳 豊かな心 担当 道徳 人権・児童支援部	様々な体験活動を通して児童の豊かな心と規範意識や礼儀を大切にすることの態度を育て、自然や社会、みんなのことを大切にすることができる子どもを育てる。自他の違いを認め合い、多様性を寛容に受け止められる温かな学校風土を作っていく。児童が話し合って決めた児童会スローガンのもと、誰もが自分らしく生き生きと活躍することができる学校づくりを推進する。
体 健やかな体 担当 健康安全指導部	健やかな体を育み、望ましい生活習慣を身につけるために、目標をもって進んで運動し、継続的に「縄跳びチャレンジ」に取り組んで自らの体力向上に努め、互いに高め合い、健康な体づくりをする子どもたちを育てる。学校保健委員会では、自身の健康に対する意識や取り組みを振り返り、今後の生活に活かすための学びの機会づくりをする。
公 自分づくり教育 (キャリア教育) 担当 特活・総合	児童が自己理解を深め、自分の得意なことや興味のあることから世の中にある様々な仕事に目を向ける。あらゆる仕事が生社会のため、人々の幸せのために役立っているという職業観をもち、将来に向けて夢や希望をもって学びに向かえる子どもたちを育てる。地域コーディネータと連携し、キャリア教育の講師を募り、子どもたちの学びに地域の教育力を生かしていく。
いじめへの対応 担当 児童支援部	校内の児童支援専任を2名体制で強化し、児童一人ひとりを丁寧に見取るためにL-gateなどを活用し、いじめを未然に防ぎ、早期発見、解決に向けて児童に寄り添った丁寧な対応を組織的に行う。当該、関係児童の保護者にも事実関係や学校としての対応を随時丁寧に伝える。児童会活動を中心に、児童が主体的にいじめのない学校にしようとする意識を育てる。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 人材育成担当	全ての教職員が互いに高め合う「校内重点研究・職員研修」を行い、授業力や児童、保護者への対応力の向上に組織的に取り組む。また、「本当に大切なこと何か」を常に考え、ICTを有効活用し、限られた時間の中で最大限の成果を出す働き方への意識改革に継続して取り組んでいく。
特別支援教育 担当 特別支援教育委員会	児童支援専任、特別支援教育コーディネーターを柱とした組織で、全教職員が協力し、学校全体で特別支援教育の充実を図る。また、特別な支援が必要な児童や、困り感をもっている児童へ、より良い対応をするための校内体制強化に向け、特別支援教育の校内職員研修と特別支援教室の充実を図る。
地域連携 担当 生活・総合 図書 家庭科	地域コーディネーターと教職員との連携を密にして学校ボランティア組織の方たちや、福祉施設、保護者や地域の方たちを講師として迎えるキャリア教育や「プロフェッショナル」に触れる体験学習等、地域の人材を教育活動に積極的に活用して児童の豊かな学びを実現する。
地域学校協働活動 担当 校長・副校長 教務	青葉台中学校ブロックとして一中小の学校運営協議会を開催し、地域の方たちの声を取り入れ学校運営の改善を図り地域の理解と協力のもと学校運営を進める。年度末には、学校評価のアンケート結果とその考察から次年度の学校経営方針や具体的な取り組みを検討し、さらなる改善につなげていく。
担当	